



第6投目：奄美クロ釣り頂点への挑戦

3月の釣行で仲間と目撃した大型尾長グレが狙える日をあれ以来ずっと待っていました。なかなか安定した天気恵まれなかった2015.4月、ついに私の休みの日にその海域へ渡船が走れる天気…さっそく乗り合いの瀬渡し船にTEL予約をし、単独でM瀬を狙うことにしました。

しかし乗り合いの渡船、この時期奄美でクロが狙える磯は限られているため、誰がどこに降りるかは渡船の中での話術と運にかかっています。

ピリつく心理戦の後、他のクロ釣り師達が私の狙うM瀬には降りないと言うので、なんとか私が渡れることになりました。朝一から神経をすり減らしましたが、まずは第1難関突破です。

その日は午前10時頃から南東の風が強くなっていく下り坂の天気予報、朝のうちに勝負を決めておきたいところですが、どのタイミングであの大型クロが出てくるのか？それとも今日は出てこないのか？それは分からないこと。とにかく5ヶ月間の長丁場で開催されている「オープン奄美クロ釣り選手権」の頂点を目指し、可能性のある磯で人事を尽くすかありません。

きれいな朝焼けが磯を包みこむ時間から、私は可能な限り海から得ることのできる情報を収集し、来るべきその時に備え続けていました。しかし、あの大型が見えるどころか他のクロからのアタリもないまま時間だけがどんどん過ぎていきます。気づけば上げ潮が止まり下げ潮の時間へ。潮の動きもぱっとしないまま潮位だけがどんどん下がっていくM瀬でした。

正午前、それまで幾度か試してはいましたが餌がほとんど取られなくなっていた場所で久々に餌が取られました。人間からは魚が全く確認できない状況で、『これは怪しい…』そう感じた私は次の1投で何者か重量感のある魚を掛けていました。掛けた瞬間から浅場を一気に加速し深みへ、竿はすごい速さで伸されます。反射的にバールを開け竿の角度を立て直し、再びその重量感を感じようとした時…すでに私の釣り針はその魚から外れていました。6時間待ちわびてようやく来たタイミングです。『今のアタリ、クロだったか？』一瞬頭で考えましたが、感覚的なところでは100%クロだったと感じていました。そしてその2投後、42cmと小型ながらも同じ場所、同じ釣り方でクロがヒットしたのでした。奄美クロ釣りの頂点へ挑戦したこの日、私に会いに来てくれたのは釣れたこのクロだけでした。そしてその5日後、前回一緒にあの大型クロを目撃したメンバーがヤツを釣り上げたのです。55.7cm！まさしく目撃したあのクロと同サイズ。そのクロは今シーズンのオープン奄美クロ釣り選手権を制する魚となりました。

目標とする魚を明確に見つけていた今シーズン、結果は出ませんでしたが終わってみると充実したものでした。また来季、クロ釣りを通して奄美を楽しんでいきたいものです。

